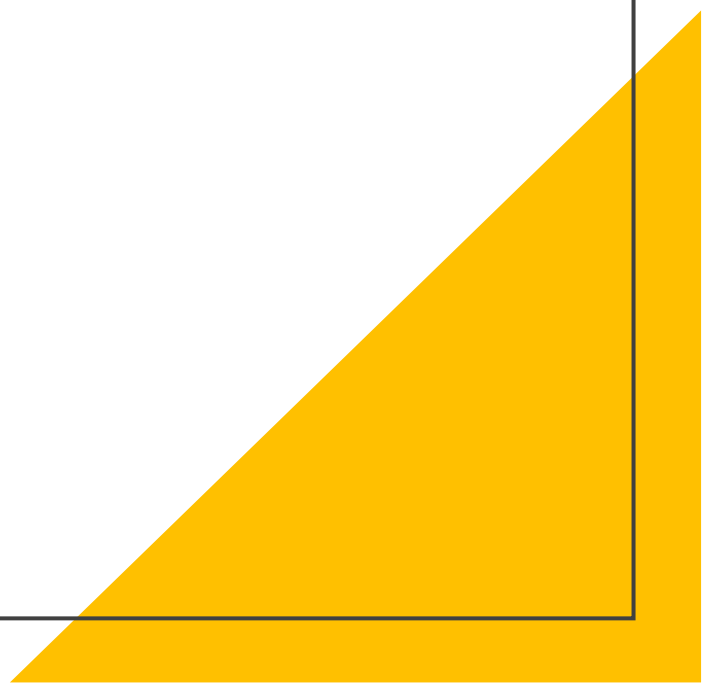


令和5年度 宮城県立視覚支援学校小学 部2年 学習教材記録

令和5年度 宮城県立視覚支援学校
小学部 2年1組 担任 菅原 真穂



国語「ふきのとう」



教材の意図

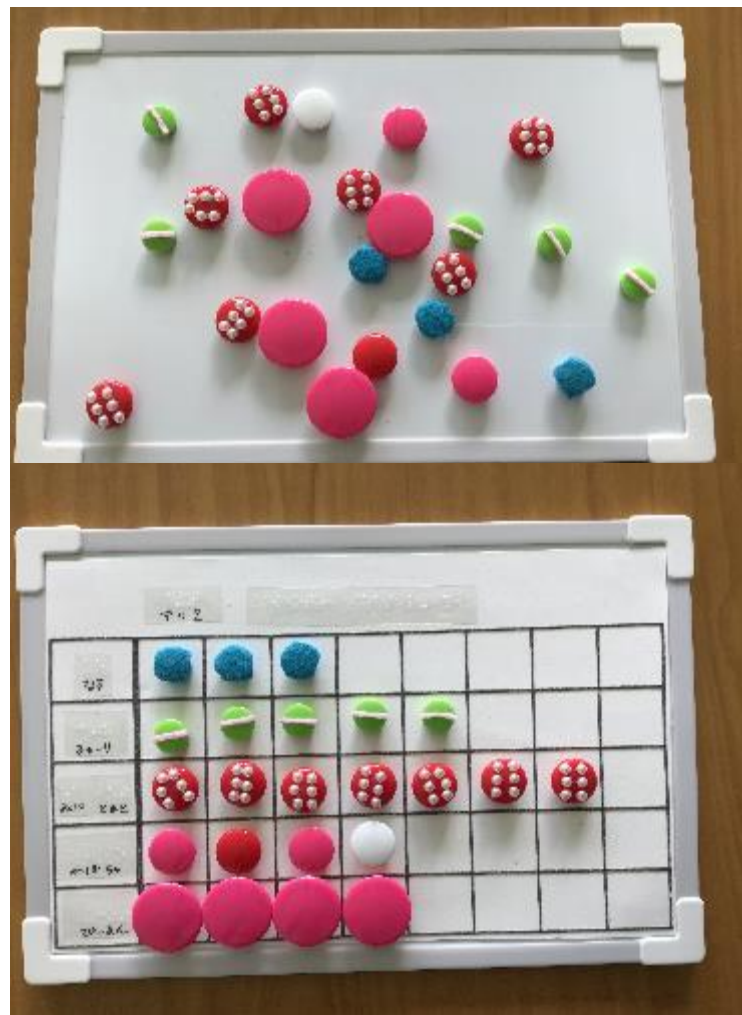
場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができるよう、異なる素材で、雪、竹やぶ、ふきのとうを作成。

実践結果

複数の竹を触ることで、「竹」と「竹やぶ」の違いを理解した様子で、竹やぶの台詞は複数人で音読するという読み方の工夫につながった。

児童が実際に雪の下に潜り、ふきのとうになりきったり、竹やぶの方を向いて話しかけたり、教材を用いた動作化や位置関係の把握につながった。そして、場面に応じて工夫した音読をすることができた。

算数「せいりのしかた」



教材の意図

身の周りにある数量を分類整理し、簡単なグラフを用いて表したり読み取ったりできるよう、ホワイトボードと大きさや手触り、形の異なる磁石とグラフのシートで作成。

実践結果

雑多にある磁石を提示すると、左下から種類ごとに並べ、整理をした。その後、項目とグラフの枠が書いてあるグラフのシートを提示し、項目ごとに整理をする中で、グラフは「何が一番多いか」「何が一番少ないか」「何と何が同じ数か」ということがすぐにわかるということを実感することができた。グラフの便利さに気づいた児童は、自らタイプライターを用いてグラフを作成し、データの整理に活用するに至った。

図画工作「好きなことなあに」



教材の意図

好きなことをしている自分をクレヨンで描くことを楽しむことができるよう、紙とモールで服の縁を作成。

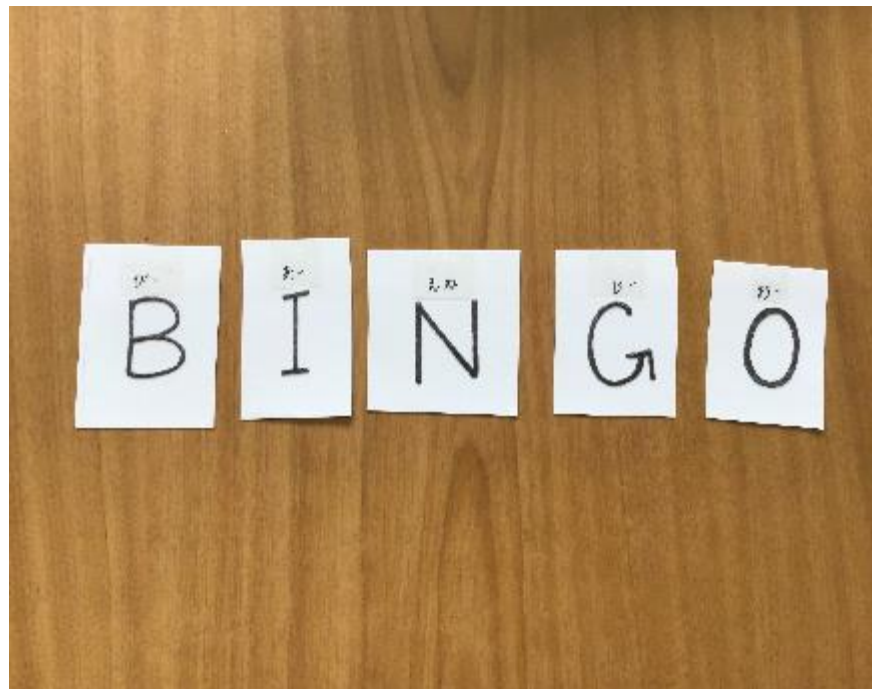
実践結果

児童は、クレヨンの使用経験があまりなかったことと、クレヨンで塗った場所を触って把握しにくかったことで、クレヨンではない表現方法を選択して行った。今後、クレヨンでの表現方法を一緒に試しながら経験を積んでいくようにしたい。

教材の中を、製図テープを用いてストライプ柄を表現するなど、はじめと終わりがわかることで、服の柄を自分なりに工夫することができていた。クレヨンで塗ることを想定して作成していた教材（縁）だったため、テープを貼る際にとっても細かい作業となったが、児童は細かい作業が得意で、自信を持って集中して取り組んでいた。



音楽「ビンゴ」



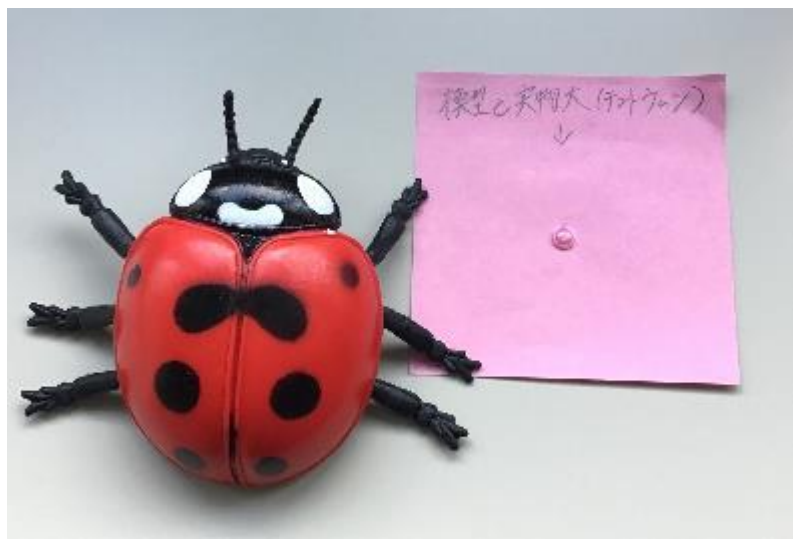
教材の意図

世界の遊び歌を楽しむことができるよう、墨字と点字でビンゴの英字カードを作成。

実践結果

英語という言葉があり、Bという形がビーを指しているというこ等を伝えたことで、「ビー」「アイ」「エヌ」「ジー」「オー」の一つ一つが言葉であることを把握した様子。そうしたことで、一つずつを手拍子に変えて歌う歌遊びを楽しむことができた。

道徳「春がいっぱい」

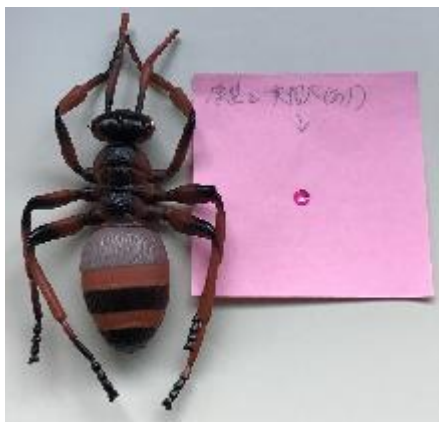


教材の意図

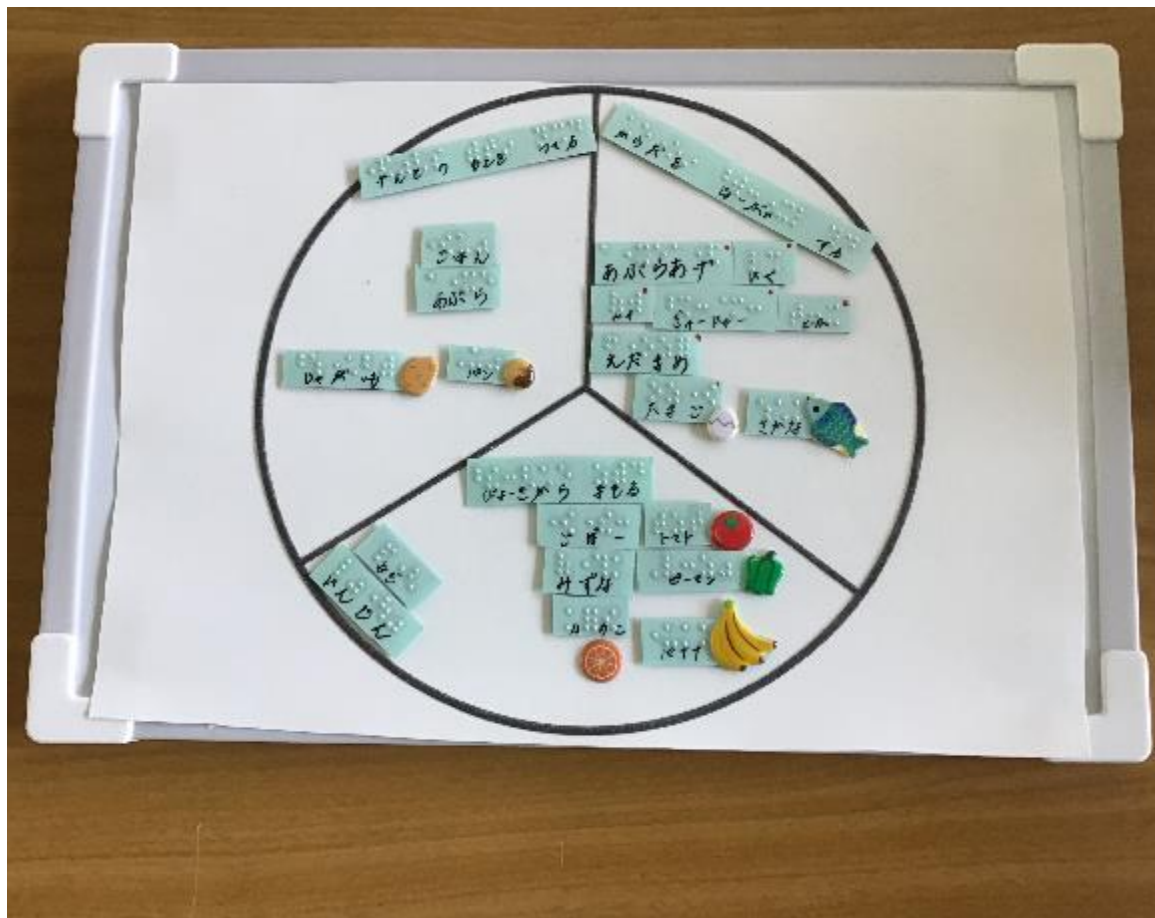
身近な動物との接し方に気づくことができるよう、模型を用意。また、実際の大きさを丸シールでそれぞれ現し、実寸大を把握できるようにした。

実践結果

児童は、動物の名前は知っているが、どのような形をしているのか、どのくらいの大きさなのかは知らなかった様子。模型をじっくりと触る中で、足がある場所、体の形等に気づいた様子。さらに、実寸大を提示することで、「意外と小さい」や「こんなに小さいの!」という気づきもあった。実寸大を提示することは、「このくらい小さいなら怖くないね」という安心感にもつながるのではないかと考える。



特別活動「病気の予防について」



教材の意図

健康に気をつけ、けがや病気にかからないための工夫について知ることができるよう、給食のメニューを3つのたべのものの役割に分けることができるよう作成。

実践結果

食べ物一つ一つには大切な役割があるということを実践をとおして気づいた様子。給食では、苦手な野菜やキノコ類等にも挑戦して少しでも食べるようにしている児童の頑張りを、「いつも苦手でも頑張って2口たべているから、病気にかからずに毎日元気に過ごせるんだね。」と評価したことで、自身の頑張りを価値あるものとして自覚することができた様子。

自立活動「はさみを使って母の日のプレゼント作り」



教材の意図

力をコントロールして、はさみを使って紙を切ることができるよう、折り紙をまっすぐに、途中まで切って作るお花を紹介。

実践結果

児童の大好きなお花であることや、「母の日」のプレゼントであることで、主体的に、丁寧に取り組んでいた。

切るガイドを教員の手で示したこと、終わりの場所を教員の「ストップ」という声がけにしたことで、切る位置と終わりが明確になり力をコントロールしてはさみを操作することができていた。

国語「ともだちをさがそう」



教材の意図

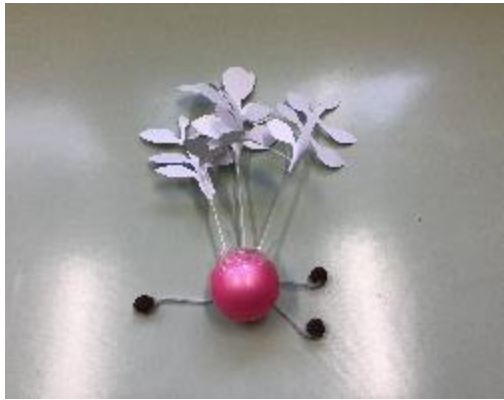
学習のねらいは、「自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる」である。そこで、落とし物を探す活動の中で、手触り（素材）や大きさ、形が異なるタオルやハンカチ、マスクを用意。

実践結果

児童は、教師の探し物のお知らせをよく聞き、特徴を捉え、探し物を見付けることができていた。さらに、話を聞くときに大事なこと（大きさや形、手触り）に気づくことができていた。



自立活動「はさみを使ってじゃがいもの芽かき」



教材の意図

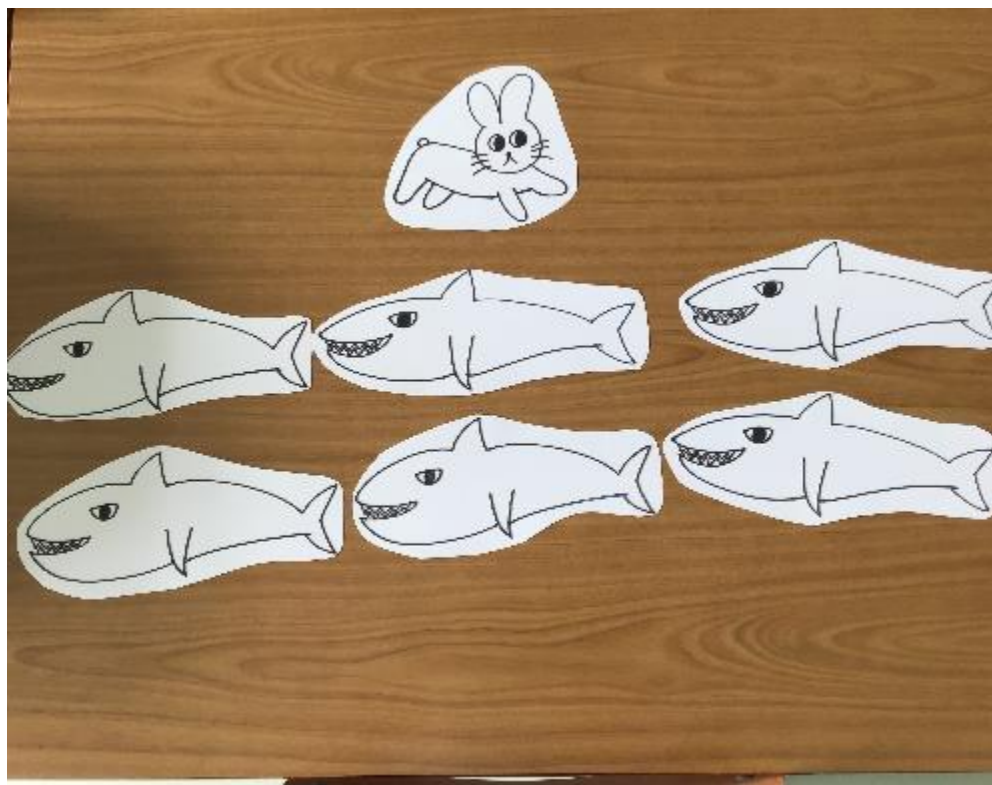
じゃがいもは、土の中で大きくなるということ、葉っぱから栄養が送られているということ、はっぱが多すぎると実に栄養が届かなくなってしまうということを伝え、芽かきをする理由を伝えるため、カラーボール（種芋）やモール（根）、ポンポン（実）、ストロー（茎）、葉っぱの形の紙、プランター、タオル（土）を用意。

茎をちょっきんと切る練習をする際に、切った際の音や感覚がわかりやすいよう、ストローを使用。

実践結果

茎の切る場所（土に近いところ）を左手で探り、そこにはさみの刃をあてがい、左手は少し上の方へ移動して安全に切れるように練習した。10本ある茎を3本に減らすため、7本切る練習する中で、安全にちょっきんと切る方法を習得した様子。実際のじゃがいもの茎はストローよりも太く、堅かったが、スムーズにはさみを使い、安全に切ることができた。児童は、達成感を感じていたようだった。

国語「いなばの白うさぎ」



教材の意図

学習のねらいは「神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。」である。うさぎとわに（さめ）の動きを立体コピーした絵を用いて確認することができるよう作成。

実践結果

児童は、わにとうさぎの絵をじっくり触ってそれぞれの特徴を把握した。そして、わにを一行に並べ、その上をうさぎがぴょんぴょんととんでいるように動かし、神話の内容を再確認することができていた様子。

国語「たんぽぽのちえ」 1



教材の意図

「らっかさん」というのはじめてであう言葉を具体的に把握し、たんぽぽの綿毛がそれに例えられていることを理解することができるよう、パラシュートの模型を用意。

実践結果

模型を触って確認する中で、らっかさんの構造を把握した様子。しかし、実際に空気の入った状態で確認することが難しかったため、飛行機からどのような仕組みで、どのような形で落ちてくるのかということを理解するのは難しかった。風船等を入れ、形を触って確認できるようにすると良かったのではないかと考える。



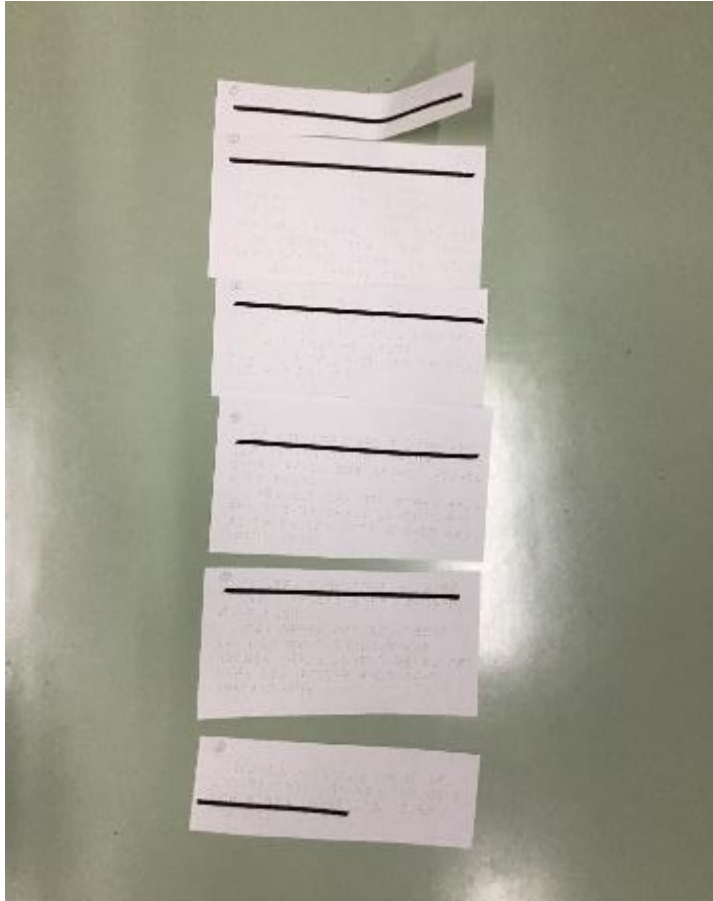
教材の意図

時間的な順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるよう、黄色いフェルト（黄色い花）、黒いフェルト（黒っぽい花）、綿（わた毛）を動作化する際に活用。

実践結果

児童は教師の音読に合わせて黄色い花から黒い花、そしてわた毛へと教材を活用してたんぽぽになりきり、実感を伴いながらたんぽぽの変容を理解していた様子。

国語「たんぽぽのちえ」 2



教材の意図

学習のねらいは「順序など情報と情報との関係について理解することができる」である。時間の順序で説明されているたんぽぽのちえを、話のまとまりごとに分けて提示し、時を表す言葉に製図テープを貼る活動を実践。

実践結果

ランダムに話のまとまりを提示し、正しい文章の順序に並べる活動を実践。単元の始めの方には、文章の始めを読み、記憶を想起しながら、そして感覚的に並べていた。単元の終盤になると、時間を表す言葉を見付け、正しい順序に並べることができるようになった。

日常生活の中や日記の中でも、「さいしょに」「そのあと」「さいごに」等の順序を意識した発言や記述も見られている。

図画工作「みんなでワイワイ！紙けん玉」



教材の意図

作りたいけん玉を作ることができるように、立体コピーした耳の形を用意。

児童は、はさみを使用し、自分のイメージ通りに切ることによって課題がある。また、はさみを使用する際、きれいに切ることを第一にし、始めから教師と一緒に取り組もうとする。児童が自分の力で切る経験を積むことができるよう、教材を用意。



実践結果

立体コピーの周辺の余分な部分を児童一人で切り、その後、立体コピーの周りを教師と一緒に切るようにした。すると、児童一人で、紙を触り、切る場所を確かめ、自信を持って切ることができた。その後、立体コピーの形に添って教師と切ることで、自分で切ることができた喜びと、きれいにイメージ通りに切ることができた喜びで満足感を感じていた様子。

算数「長さのたんい」



教材の意図

学習のねらいは「ものさしを用いて必要な長さの直線をひくことができる。」である。

始めは、始めの点と終わりの点を丸シールを貼り、それを直線でつなぐことから練習した。

実践結果

始めと終わりが明確であることで、始めに直線をひくための技能を習熟することができた。直線をひくためには、左手で物差しをしっかりと押さえる必要があることに気づき、意識して取り組んだ。

その後、始めの点と終わりの点を児童自身で書き、直線で結ぶ練習をした。始めの点と終わりの点の重要性をシールで体感していたからか、うまく書くことができるように、宿題で自主的に丸を書く練習に取り組んできた。その結果、児童は、始めの点と終わりの点を書き、直線で結ぶ技能を身につけることができた。さらに、必要な長さの直線をひくことができるようになった。

図工「おおきくそだて、びっくりやさい」



教材の意図

生活科で育てている野菜の貼り絵の活動の際に、野菜の輪郭を立体コピーして用意。

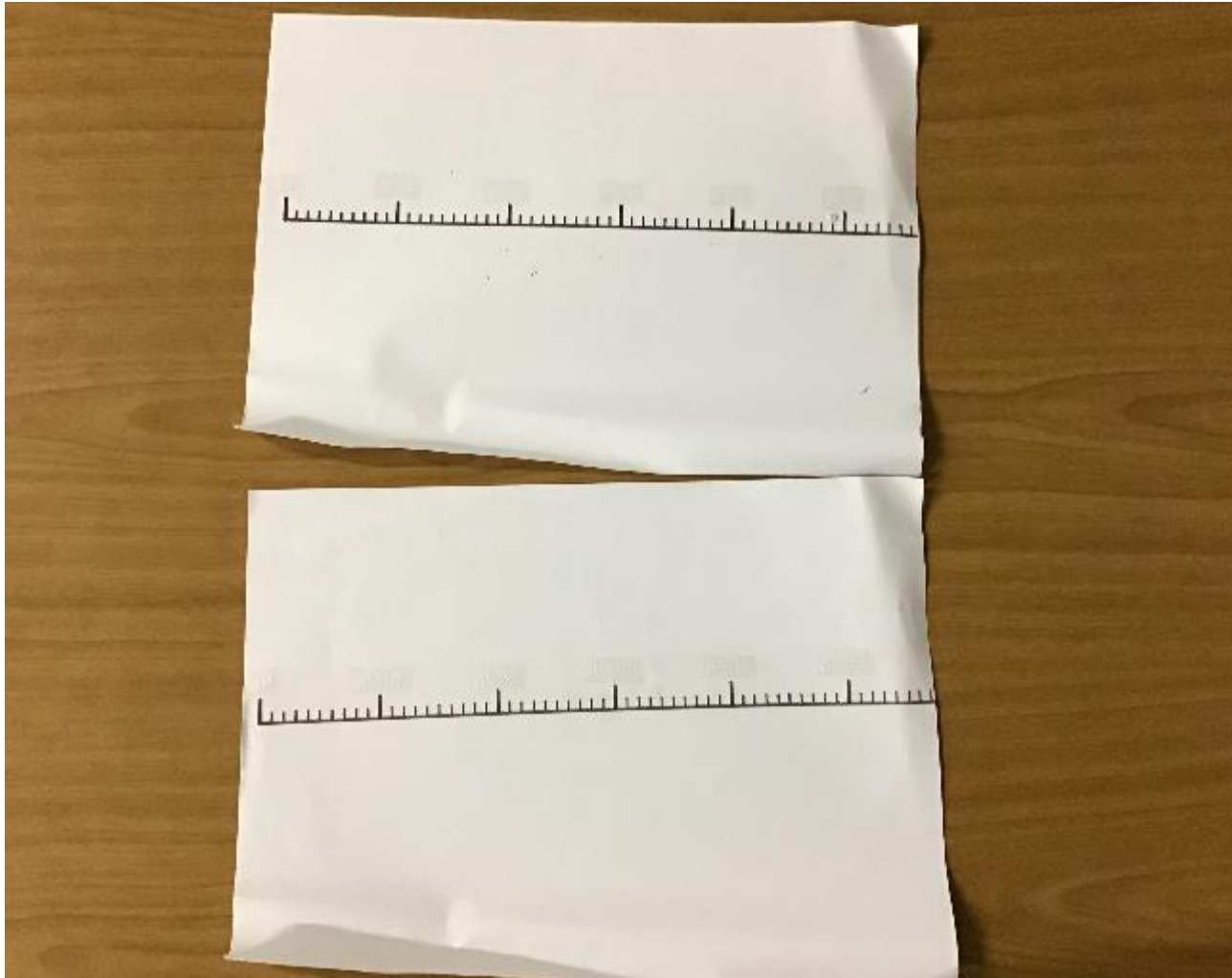
野菜の花は、実物を触察して、レーズライターで書かせ、それを立体コピーした。

実践結果

野菜の輪郭を確認しながら、色紙を貼る場所を工夫してのりで貼ることができた。色紙の他にも、セロハン紙を活用し、表現を工夫することができた。



算数「100より大きい数」



教材の意図

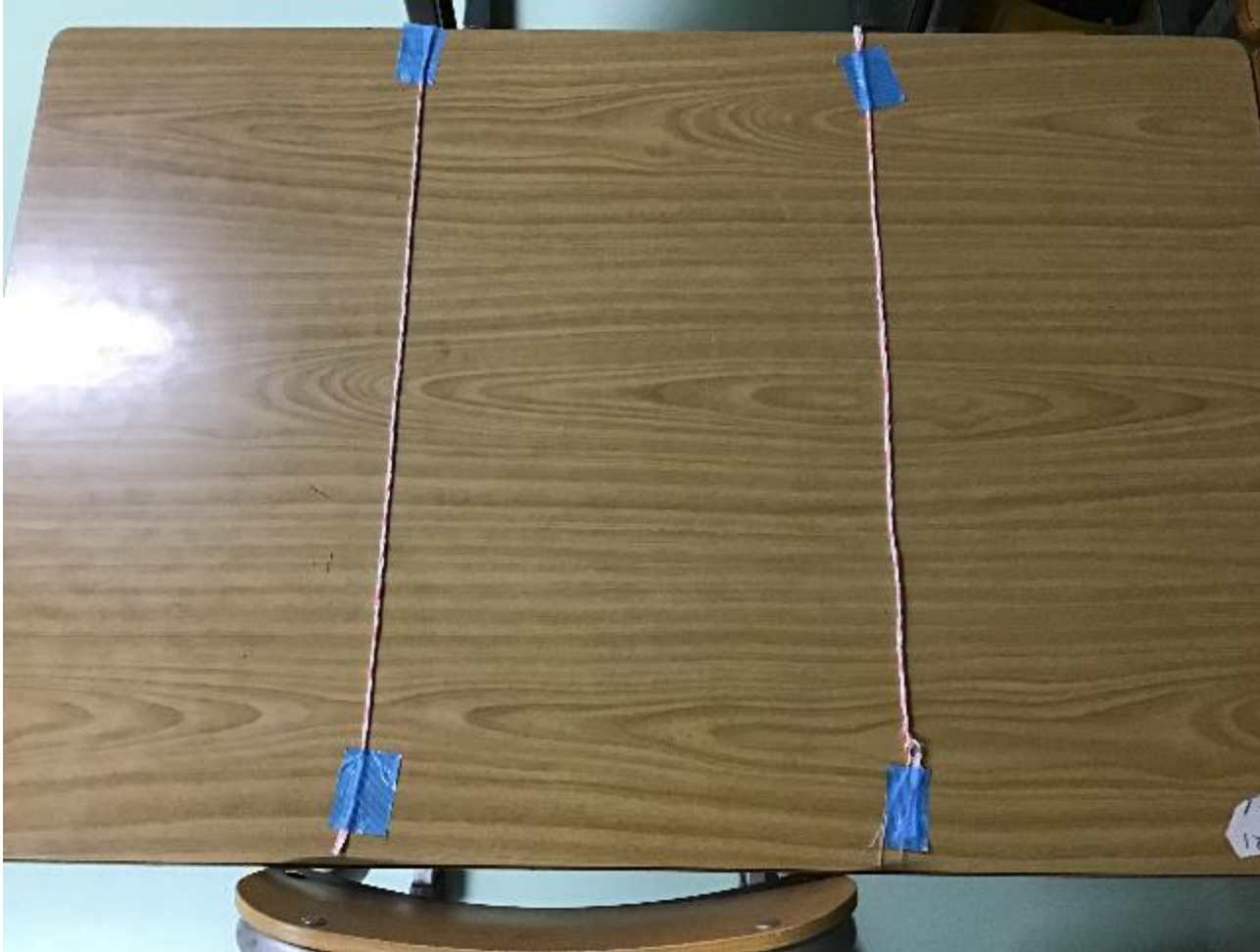
点字教科書掲載の数直線を読んで把握する前段階として、数直線を立体コピーで作成。

数直線の読み方（1目盛りがいくつかを調べる→大きい目盛りから数える）を確認する際に活用。

実践結果

点字教科書掲載の数直線は、何段にも分けられて記載されているが、立体コピーで数直線を確認したことで、その仕組みを把握することができた。また、数直線の読み方を習得し、点字教科書掲載の数直線でも、100より大きい数を読み取ることができた。

算数「100より大きい数」



教材の意図

机に紐をはり、左から一の位、十の位、百の位とし、その上でブロック等を数えながら、3位数の構成を確認した。

実践結果

ブロックを数える際に、一の位にばらぐつくつあるかなど、位を意識して数え、数の仕組みを理解することができていた。

また、3位数の数を読み上げる際にも、位を意識することで、数を正しく理解し、空位の概念も認識することができた。

算数「かさのたんい」



教材の意図

1 dLます、1 Lますを用いてかさを測定することができるよう、ますの内側と外側の目盛りに触って確かめられるシールを貼って作成。

実践結果

外側の目盛りに貼ったシールを確認し、1目盛りのかさの量を確認し、かさを測定する際には内側の目盛りに貼ったシールを確認し、かさを測定することができていた。

かさを量ることができるようになり、身の回りの容器（牛乳パック等）のかさも主体的に調べる姿が見られた。

国語 下巻の扉のページ 「あかとんぼ」

教材の意図

赤とんぼが郵便ポストと表現されていたため、その形を確認するために模型を活用した。

実践結果

児童は、生活科の町たんけんでは郵便ポストを発見し、郵便ポストを確認してレーザーライターで書いた経験があった。その形と、赤とんぼの形（羽と胴体）を比べ、比喻の意味を理解し喜んでいた。そして、その詩の意味の理解を伴って楽しむことができた。



図工「いろいろもよう」 「どうぶつさんといっしょ」

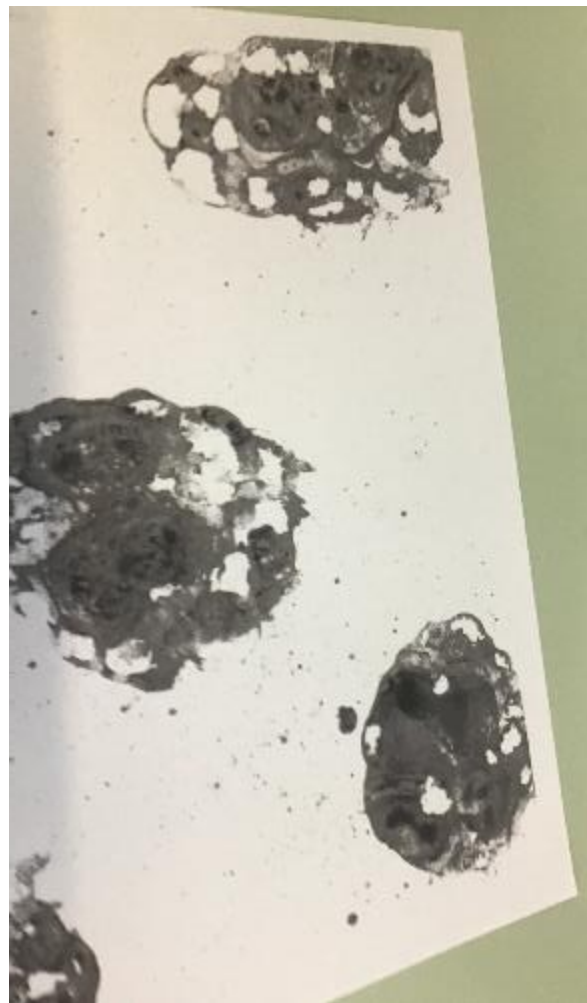
教材の意図

シャボン玉の泡で模様を作ることができるよう、シャボン玉の液に絵の具で色を付け、画用紙に泡をのせ、乾かしてから立体コピーをした。

実践結果

児童はシャボン玉で遊んだり、飲み物などをブクブクと吹いた経験はあるが、シャボン玉がはじけた際の液体に触れた経験にとどまっていた。そこで、泡の塊を立体コピーして触ることで、ボコボコと空気が入っている部分と液体の部分がたくさん出てくる泡の集まりの面白さを実感していた。

また、その模様を、動物園の作品の中で、動物が食べる草や動物が乗って遊ぶ石として用いており、表現方法の幅を広げることができた。



国語「せかいーの話」



教材の意図

場面の様子を想像しながら、昔話の読み聞かせを聞くことができるように、登場人物を触察して確認した。（

- ・うみがめの模型
- ・くじらの本
- ・わしの模型がなかったため鳥の模型とわしのくちばしの形に近いフクロウの模型

実践結果

読み聞かせの前に登場人物の模型等の触察教材で確認したことで、昔話の中での登場人物の動きを具体的に想像し、感想を深めることができていた。また、様子を想像でき、物語の内容を理解することができたことで、昔話ならでのイントネーションや言葉の響きの面白さにも気づくことができていた。

国語「カンジーはかせのだいはつめい」



教材の意図

箱の一つの面に2つの穴を開け、他の面に1つの穴を開け、2つの漢字を入れ、合体させると新たな漢字が完成することを理解できるように作成。

実践結果

2つの漢字をそれぞれ確認してから、それぞれを穴に入れさせ、合体した漢字を一つの穴から出す（教師が）ことで、二つの漢字がどのように組み合わせあったのかを興味深く確認し、漢字に親しむことができた。

漢字は、

- ・ 日と門→門
- ・ 日と生→星
- ・ 糸と会→絵 など

国語「お手紙」



教材の意図

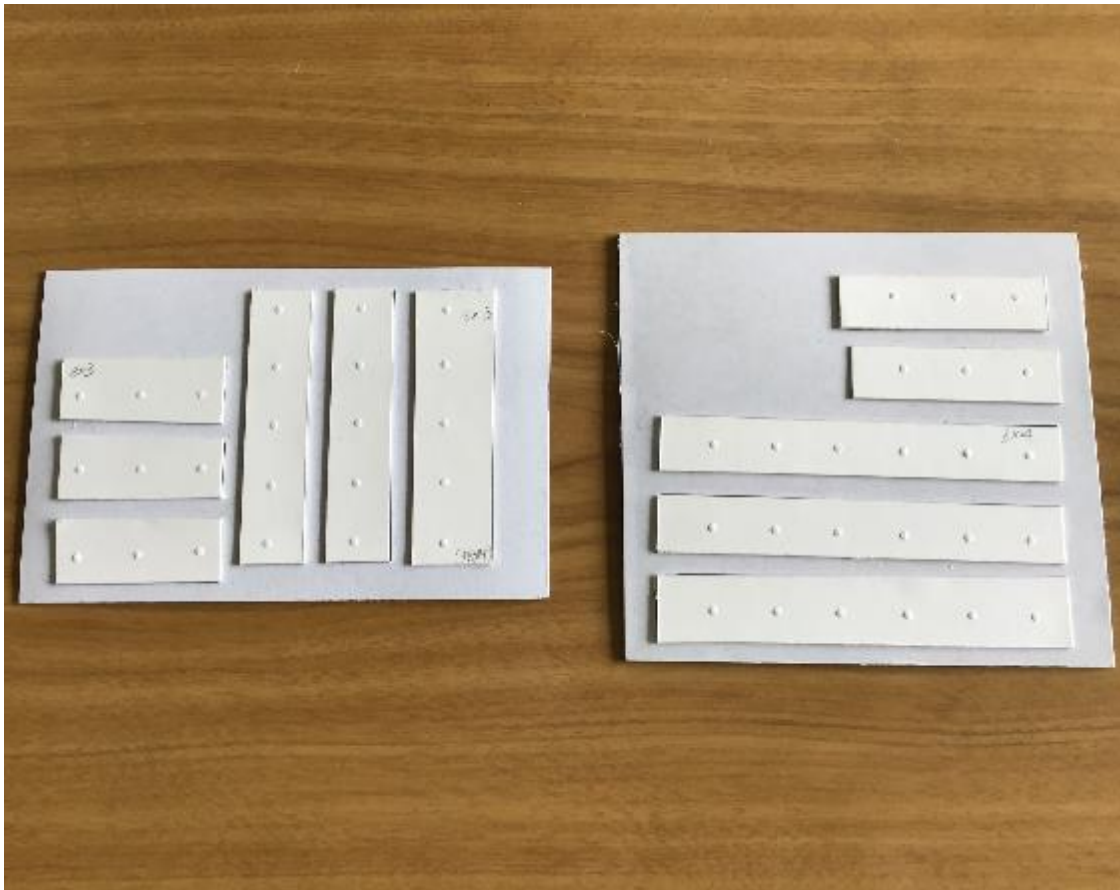
登場人物の行動を具体的に想像したり、言葉の意味を確認し、豊かな語彙を身につけることができるよう、手ざわりの異なる素材（フェルト、網、、布、セロハン紙）でがまくんやかえるくん、かたつむりくんを作成。

実践結果

墨字の教科書に出てくる挿絵を、教材を動かして位置関係を捉えたり、口の形を動かしながら表情を確認したりして、気持ちを想像し、音読劇に生かすことができていた。

また、物語中に出てくる「おいそぎで」や「とびだしました」などの動作を、教材を動かして確認し、その後、児童自身が動作化することで、言葉を具体的に理解することができていた。そして、その動きにふさわしい音読の工夫を考え、音読劇に生かすことができていた。

算数「かけ算のきまり」



教材の意図

全体の数の求め方をかけ算を使って、工夫して求める際、数のまとまりに着目してかけ算を作ることができるよう作成。また、触図を活用して、分かりやすく説明できるように作成。

実践結果

全体の数の中で、工夫して様々な数のまとまりをつくり、かけ算に立式することができた。パズルのように複雑に数のまとまりを立案することもあったが、まとまり毎に確認することで、「早く、正確に、簡単に」捉えられるまとまりの作り方のよさに気づくことができた。

また、まとまりを意識した活動の中で、「1つ分」×「いくつ分」＝「全部の数」の考え方を確実に身につけることができていた。